

# 乗雲

寺報  
第86号

H24.11.15 発行

編集人

〒959-2646 新潟県  
胎内市西栄町2-8  
TEL0254-43-2419  
FAX0254-43-4560  
広厳寺  
住職 神田英俊

メール  
otera@kogonji.jp

念ずれば花ひらく

念ずれば 花ひらく

苦しいとき 母がいつも口に

していた このことばを

わたしもいつのころからか

となえるようになった

そうしてそのたびに

わたしの花がふしぎと

ひとつひとつ

ひらいていった

仏教詩人である坂村真民さんの言葉です。何事も一所懸命念ずれば自ずと道は開けるといふものです。

お釈迦さまは人間のわがままな心(我欲)を無くすための「八つの正しい道・八正道」を説いていきます。一、正見(正しく物事をみる)、二、正思惟(正しい考え方)、三、正語(正しい言葉を使う)、四、正行(正しい行い)五、正命(正しい生活をする)、六、正精進(正



しく努め励む)、七、正念(正しい信念を持つ)、八、正定(正しい落ち着きを持つ)。私たちは何が正しいのか、何が間違いなのか、判断に苦しむことがあります。本当の正しいことは道理にかなっていないければなりません。八正道は正しい道を歩む上で大切な教えです。

七番目に「正念」があります。正しく念ずる、仏さまのような正しい心、正しい智慧を持って生きることです。「念」とは、「今の心」と書き表します。今、目の前の人、目の前のこと、今この時を、慈悲の心、感謝の心、仏の心を持って正しく生きて行くとき、自分の中に美しい心の花が咲きほこります。

奈良・中宮寺の如意輪観音菩薩

半跏思惟像のポスターは曹洞宗で少し前に布教資料として配付されました。そこに書かれてある「念ずれば花ひらく」は十月十五日に享年八十六歳でご遷化なされた曹洞宗前宗務総長、前宗議会議員の阿賀野市駒林・養廣寺前住職乙川良英老師の筆になるものです。とても温厚なお人柄であり、どなたにでも優しく接し、だからからも慕われた方でした。宗門行政のトップである宗務総長を務め、曹洞宗発展にご尽力されました。そのお心そのままが書にあらわれていると思えました。

道元禅師に「春は花、夏ほととぎす、秋は月、冬雪さえて、冷かりけり」との詩がありますが、「春は花」、自然の花の美と人の心の美しさを説いています。殺伐とした、何が起るかも知れない現代社会にあつて、私たちは「正しい信念」で、いつも仏さまのような優しい、穏やかな心を持ち、正しい生き方をする。そうすることによつて、野に咲く綺麗な美しい花のように、自分の中にある美しい心の花がひらくことであります。念じましょう。人々の幸せを。

## 平成二十五年度年回表

〔回忌〕	〔没年〕
一周忌	平成二十四年
三回忌	平成二十三年
七回忌	平成十九年
十三回忌	平成十三年
十七回忌	平成九年
二十三回忌	平成三年
二十七回忌	昭和六十二年
三十三回忌	昭和五十六年
五十回忌	昭和三十九年
百回忌	大正三年

＊来年(平成二十五年)の年回忌表です。十一月中旬に正当の各家に通知いたします。

＊日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は九六年目が七回忌となる。